

編集後記

2018年も早いもので6月になりました。今年も半分過ぎたのかと唖然とするばかりです。東京の八重桜も散り若葉に、その後のハナミズキの花も散りました。山々も新緑から梅雨前の緑へと移っています。

本号の特集は、「小児科医のための新しい画像診断の知識」です。

「脳機能画像法を用いた子どもと親のこころの脳科学研究の動向」では、functional MRIを用いて子どもや母親の脳機能についての研究の一端が紹介されています。将来の発展が楽しみです。「磁化率強調画像法」は、MRIの新しい画像法で、静脈血、石灰化、出血などについて従来より詳細な情報が得られます。本稿ではとくにこの画像法の小児中枢性神経疾患への応用について述べられています。「関節超音波検査」では、超音波検査の小児の関節痛に対する診断有用性が述べられています。「胎児3D・4D心臓超音波検査」では、胎児心臓超音波検査の3D・4D画像診断の有用性が述べられています。「Superb Micro-vascular Imaging」では、腹部臓器の微細血流を造影剤無しで撮像できるエコー法で、肝線維症や腸管イレウスなどの病態診断に有用であることが述べられています。「胎児MRI」では、エコー検査と比較した胎児MRIの利点が述べられています。「カプセル内視鏡」では、小児消化器疾患での本法の有用性が述べられています。「FDG-PET(腫瘍)」では、FDG-PETが悪性リンパ腫や骨軟部腫瘍、その他の悪性腫瘍の診断、転移の診断に有用であること

が述べられています。「FDG-PET, FDG-PET/CT(炎症性疾患)」では、FDG-PETが不明熱、不明炎症の診断に有用であることが述べられています。「¹³N-アンモニアPET」では、^{99m}Tc心筋血流SPECTよりも被曝量が少ない本法の有用性が述べられています。川崎病などの小児虚血性心疾患への応用が期待されます。以上、小児科医のための新しい画像診断の解説が盛りだくさんです。

特集以外に、「AYA世代の急性白血病」ではAYA=adolescent and young adultの急性白血病について、また「慢性活動性EBV感染症と類縁疾患」の総説が掲載されています。また、「診療」の欄では、「小児のヘリコバクター・ピロリ感染症と皮膚病変」、「小児寄生虫感染症の対策・予防」「咽喉頭・気管・気管支軟化症」という実践に役立つ論文をいただきました。

「症例」では、「先天性内耳奇形を認めたHaemophilus influenzae type fによる細菌性髄膜炎の3歳男児例」の報告をいただきました。

目で見える小児科では、「ステロイド治療後の反応性胸腺過形成」が掲載されています。

「最近の外国業績より」では日本医科大学小児科教室から免疫に関する論文を紹介いただきました。

以上、非常に充実したかつ日常診療に役立つ内容になっています。ご一読下さいますようお願いいたします。

(中西 敏雄)

編集：伊藤保彦・河野陽一・中西敏雄・岡部信彦・高橋孝雄（ABC順）

小児科

第59巻第7号 6月号

2018年6月1日発行（毎月1回1日発行）

定価（本体2,600円＋税）

年間購読料金

定価（本体41,000円＋税）

〔年間13冊（増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

※別冊は年間購読に含まれません※

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14

Tel 03(3811)7165〔雑誌部直通〕

Tel 03(3811)7184〔営業部直通〕

Fax 03(3813)0288

<http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 Tel 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 Tel 06(6941)5600

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY**＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-3513-6969、FAX：03-3513-6979、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。